

学習指導要領		都立蒲田高校 学カスタンダード
(1) 世界史へのいざない	<p>自然環境と歴史，日本の歴史と世界の歴史のつながりにかかわる適切な主題を設定し考察する活動を通して，世界史学習の基本的機能に触れさせるとともに，地理と歴史への関心を高め，世界史学習の意義に気付かせる。</p> <p>ア 自然環境と歴史</p> <p>歴史の舞台としての自然環境について，河川，海洋，草原，オアシス，森林などから適切な事例を取り上げ，地図や写真などを読み取る活動を通して，自然環境と人類の活動が相互に作用し合っていることに気付かせる。</p> <p>イ 日本列島の中の世界の歴史</p> <p>日本列島の中に見られる世界との関係や交流について，人，もの，技術，文化，宗教，生活などから適切な事例を取り上げ，年表や地図などに表す活動を通して，日本の歴史が世界の歴史とつながっていることに気付かせる。</p> <p>近現代世界を理解するための前提として，ユーラシアの諸文明の特質に触れるとともに，16世紀以降の世界商業の進展及び資本主義の確立を中心に，世界が一体化に向かう過程を理解させる。その際，世界の動向と日本とのかかわりに着目させる。</p>	<p>世界史における自然環境の変化とそれが与えた影響について概説して理解する。また，ユーラシア大陸における諸文明の交流から，両者のつながりと与えた影響を理解する。また，大陸からの影響を中心に日本社会の形成についても簡単に理解することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図版や資料集など様々なデータを利用して，それが人間の活動にどのような影響を与え，どのような結果をもたらしたのかを簡単に分析することができるようになる。また，分析を通じて得た知識を体系的なものとして修得することができる。 ・図版や資料集，地図などを利用して世界から日本列島へもたらされた文化を，白地図を用いて身につけることができる。また，年号について理解し，世界史を学ぶ際の基礎的な尺度として，西暦等を用いることができる。 <p>中国の古代文明を中心に4大文明について白地図等を用いながら，その概要を系統的に理解する。また，中国史を中心に，遊牧諸民族との交流も交えながら，西アジア世界の発展を理解する。その際にこれらの王朝が日本に与えた影響についても系統的に身につける。</p> <p>16世紀以降の歴史に関しては，大航海時代，宗教改革，科学革命の世紀等の重要な事項を系統的に理解することができるようになる。</p>
(2) 世界の一体化と日	<p>ア ユーラシアの諸文明</p> <p>自然環境，生活，宗教などに着目させながら，東アジア，南アジア，西アジア，ヨーロッパに形成された諸文明の特質とユーラシアの海，陸における交流を概観させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・東アジアの中国古代文明を中心に，その黎明期から元代前までの歴史を，周辺の遊牧民族とのかかわりも含めて理解する。 ・西アジアの歴史について古代オリエントからイスラームの発展等々を系統的に理解する。また，イ

学習指導要領		都立蒲田高校 学カスタンダード
<p>本</p> <p>イ 結び付く世界と近世の日本 大航海時代のヨーロッパとアフリカ，アメリカ，アジアの接触と交流，アジアの諸帝国とヨーロッパの主権国家体制，大西洋世界の展開とアフリカ・アメリカ社会の変容を扱い，16世紀から18世紀までの世界の一体化の動きと近世の日本の対応を把握させる。</p> <p>ウ ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成 産業革命と資本主義の確立，フランス革命とアメリカ諸国の独立，自由主義と国民主義の進展を扱い，ヨーロッパ・アメリカにおける工業化と国民形成を理解させる。</p> <p>エ アジア諸国の変貌と近代の日本 ヨーロッパの進出期におけるアジア諸国の状況，植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折，伝統文化の変容，その中での日本の動向を扱い，19世紀の世界の一体化と日本の近代化を理解させる。</p> <p>(3) 地球社会と日本 地球規模で一体化した構造をもつ現代世界の特質と展開過程を理解させ，人類の課題について歴史的観点から考察させる。その際，世界の動向と日本とのかかわりに着目させる。</p> <p>ア 急変する人類社会</p>	<p>スラムムに関してはその文化的な特徴などとともに，理解をかめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・諸地域世界の交流について，シルクロードや海の道を通じた交易の歴史を系統的に理解し，それが日本へ与えた影響を含めて概観することができる。 ・大航海時代の背景を総括的に理解し，その中で活躍した国や人物を系統的に理解する。 ・三角貿易や帝国主義の進展等の基礎的な知識を体系的に理解し，奴隷貿易の悲惨さを認識することができる。 ・明，清を中心とした東アジアの歴史について，周辺諸民族とのかかわり等とともに系統的に理解する。 ・科学革命などとともに産業革命の経過を概括的に理解し，資本主義社会の進展とそれがもたらした社会的歪について系統的に認識することができる。 ・アメリカ独立革命の経過と歴史的意義について系統的に理解し，それがその後のフランス革命をはじめとするヨーロッパの革命に影響した過程を考察することができる。 ・三角貿易や植民地といった用語について正しく理解することができる。 <p>第1次世界大戦と第2次世界大戦を中心に学習し，戦争のもたらした影響を，前後の歴史とともに系統的に理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学技術の発展や資本主義の進展について系統的 	

学習指導要領	都立蒲田高校 学カスタンダード
<p>科学技術の発達，企業や国家の巨大化，公教育の普及と国民統合，国際的な移民の増加，マスメディアの発達，社会の大衆化と政治や文化の変容などを理解させ，19世紀後期から20世紀前半までの社会の変化について，人類史的視野から考察させる。</p> <p>イ 世界戦争と平和</p> <p>帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応，二つの世界大戦の原因と総力戦としての性格，それらが世界と日本に及ぼした影響を理解させ，19世紀後期から20世紀前半までの世界の動向と平和の意義について考察させる。</p> <p>ウ 三つの世界と日本の動向</p> <p>第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立と日本の動向，アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立を理解させ，核兵器問題やアジア・アフリカ諸国が抱える問題などについて考察させる。</p> <p>エ 地球社会への歩みと課題</p> <p>1970年代以降の市場経済のグローバル化，冷戦の終結，地域統合の進展，知識基盤社会への移行，地域紛争の頻発，環境や資源・エネルギーをめぐる問題などを理解させ，地球社会への歩みと地球規模で深刻化する課題について考察させる。</p> <p>オ 持続可能な社会への展望</p> <p>現代世界の特質や課題に関する適切な主題を設定させ，歴史的観点から資料を活用して探究し，その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して，世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について展望させる。</p>	<p>に理解し，大衆社会の出現等の基本的事項を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帝国主義の概要を理解し，アジアやアフリカ諸国の植民地化の状況を系統的に理解する。さらに，第1次及び第2次世界大戦にいたる歴史的背景を認識し，その経過や結果を系統的に理解する。 ・第1次世界大戦後の世界の変容やヒトラー，ナチ政権の拡大等を中心に系統的に理解する。そして，第2次世界大戦勃発の背景について十分に理解する。 ・第2次大戦後の世界の状況について民族運動を中心に系統的に理解する。 ・戦後世界の進展について冷戦を中心に系統的かつ簡潔に理解する。 ・現代的課題について環境や安全保障の面から，今後の課題について簡潔に理解し，自分なりの考察ができるようになる。

学習指導要領		都立蒲田高校 学カスタンダード
(1) 私たちの時代と歴史	<p>現代の社会やその諸課題が歴史的に形成されたものであるという観点から、近現代の歴史的事象と現在との結び付きを考える活動を通して、歴史への関心を高め、歴史を学ぶ意義に気付かせる。</p>	<p>身近な社会的事象や、地域の事象、現代の課題などを追究し、近現代の歴史的事象と現代の結びつきに気づくことで、自らが歴史の当事者であることを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「原始」から「現代」までの時代区分や時代名を知る。 ・西暦・元号・世紀という表現方法を知る。 ・文字資料のほかに、どのような資料が歴史を知る手掛かりになるか考えることができる。 <p>「近代への胎動」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欧米で資本主社会を特質とする近代国家が成立し、植民地を求めてアジアに進出したことを知る。
(2) 近代の日本と世界	<p>開国前後から第二次世界大戦終結までの政治や経済、国際環境、国民生活や文化の動向について、相互の関連を重視して考察させる。</p> <p>ア 近代国家の形成と国際関係の推移</p> <p>(ア) 近代の萌芽や欧米諸国のアジア進出、文明開化などに見られる欧米文化の導入と明治政府による諸改革に伴う社会や文化の変容、自由民権運動と立憲体制の成立に着目して、開国から明治維新を経て近代国家が形成される過程について考察させる。</p> <p>(イ) 条約改正や日清・日露戦争前後の対外関係の変化、政党の役割と社会的な基盤に着目して、国際環境や政党政治の推移について考察させる。</p> <p>イ 近代産業の発展と両大戦をめぐる国際情勢</p> <p>(ア) 産業革命の進行、都市や村落の生活の変化と社会問題の発生、学問・文化の進展と教育の普及、大衆社会と大衆文化の形成に着目して、近代産業の発展と国民生活の変化について考察させる。</p> <p>(イ) 諸国家間の対立や協調関係と日本の立場、国</p>	<p>「明治維新」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペリーの来航により開国し日米修好通商条約が締結されたが、その内容が不平等なものであったことを知る。 ・開国後の国内に、尊王攘夷派と公武合体派の対立があったことを学び、攘夷運動の挫折の結果から倒幕への流れになったことを知る。 <p>「近代国家の確立」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明治新政府が富国強兵をスローガンとして、中央集権化を図るための政策を行ったことを知る。 ・明治維新の諸改革による士族層の没落が、士族反乱や自由民権運動につながったことを理解する。 <p>「対外関係の変化」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明治政府が不平等条約改正に至った、国内的要因と国際的背景を知る。 ・日清・日露戦争の背景と経過理解し、日露戦争の勝利が非植民地国家に与えた影響を知る。 <p>「政党政治の展開」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内で、民衆運動が政治を動かしたことを理解する。 <p>「近代産業の発展と社会運動の展開」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の産業革命が、政府の主導により始められ、製糸・紡績などの軽工業から技術革新が始まったことを知る。

学習指導要領	都立蒲田高校 学カスタンダード
<p>内の経済・社会の動向，アジア近隣諸国との関係に着目して，二つの世界大戦とその間の内外情勢の変化について考察させる。</p> <p>ウ 近代の追究 近代における政治や経済，国際環境，国民生活や文化の動向が相互に深くかかわっているという観点から，産業と生活，国際情勢と国民，地域社会の変化などについて，具体的な歴史的事象と関連させた適切な主題を設定して追究し表現する活動を通して，歴史的な見方や考え方を育てる。 第二次世界大戦後の政治や経済，国際環境，国民生活や文化の動向について，現代の諸課題と近現代の歴史との関連を重視して考察させる。</p> <p>ア 現代日本の政治と国際社会 占領政策と諸改革，新憲法の成立，平和条約と独立，国際交流や国際貢献の拡大などに着目して，我が国の再出発及びその後の政治や対外関係の推移について考察させる。</p> <p>(3) 現代の日本と世界</p> <p>イ 経済の発展と国民生活の変化 戦後の経済復興，高度経済成長と科学技術の発達，経済の国際化，生活意識や価値観の変化などに着目して，日本経済の発展と国民生活の変化について考察させる。</p> <p>ウ 現代からの探究 現代の社会やその諸課題が歴史的に形成されたものであるという観点から，近現代の歴史にかかわる身の回りの社会的事象と関連させた適切な主題を設定</p>	<ul style="list-style-type: none"> 工業化の発展により，労働問題や公害などさまざまな社会問題が発生したことを理解する。 <p>「国民生活の変化と文化」</p> <ul style="list-style-type: none"> 工業化の発展など，産業構造の変化により農村から都市部への大規模な人口移動が起きたことを知る。 明治・大正時代移行期の国民生活の変化を知る。 <p>「第一次世界大戦と日本」</p> <ul style="list-style-type: none"> 第一次世界大戦を契機として，日本が国際社会での地位を高めたことを知る。 大戦景気と社会・産業構造の変化について知る。 <p>「第二次世界大戦と日本」</p> <ul style="list-style-type: none"> 恐慌の発生による社会不安の増大と，軍部の台頭の関連を理解する。 アメリカによる禁油政策を背景に，日本が南進を図り，連合国と開戦した経緯を知る。 第二次世界大戦の経過と，日本の敗戦について知る。 <p>「日本の再出発」</p> <ul style="list-style-type: none"> 戦後，日本は連合国軍の占領下にあったことを知る。 GHQによる五大改革の概要を知る。 GHQ草案をもとに新たに制定された日本国憲法について，大日本国憲法と比較する。 西側陣営と東側陣営の対立（冷戦）が始まり，世界が東西対立（冷戦）に巻き込まれたことを知る。 サンフランシスコ平和条約により，日本が独立を回復したことを知る。 <p>「独立後の政治と対外関係」</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本は軍事面でアメリカに依存しつつ，高度経済成長を成し遂げて経済大国になったことを知る。 高度経済成長により社会構造や家族の形態が変化したことや，公害等の社会問題の発生を知る。

学習指導要領	都立蒲田高校 学カスタンダード
<p>させ、資料を活用して探究し、その解決に向けた考えを表現する活動を通して、歴史的な見方や考え方を身に付けさせる。</p>	<p>「経済の発展と国民生活の変化」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用状況の変化と格差社会の出現について知る。 ・国際社会の中で、日本が経済大国として様々な分野で期待されていることを理解する。

学習指導要領		都立蒲田高校 学カスタンダード
<p>(1) 現代世界の特色と諸課題の地理的考察</p>	<p>世界諸地域の生活・文化及び地球的課題について、地域性や歴史的背景を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を深めるとともに、地理的技能及び地理的な見方や考え方を身に付けさせる。</p> <p>ア 地球儀や地図からとらえる現代世界 地球儀と世界地図との比較、様々な世界地図の読図などを通して、地理的技能を身に付けさせるとともに、方位や時差、日本の位置と領域、国家間の結び付きなどについてとらえさせる。</p> <p>イ 世界の生活・文化の多様性 世界諸地域の生活・文化を地理的環境や民族性と関連付けてとらえ、その多様性について理解させるとともに、異文化を理解し尊重することの重要性について考察させる。</p> <p>ウ 地球的課題の地理的考察 環境、資源・エネルギー、人口、食料及び居住・都市問題を地球的及び地域的視野からとらえ、地球的課題は地域を越えた課題であるとともに地域によって現れ方が異なっていることを理解させ、それらの課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力が必要であることについて考察させる。</p> <p>生活圏の諸課題について、地域性や歴史的背景を踏まえて考察し、地理的技能及び地理的な見方や考え方を身に付けさせる。</p>	<p>現代世界の地理的認識を深めさせるにあたって、地理的認識の入り口となる、基本的知識すなわち基本的な地名とその位置（例：世界全図の中で、ヨーロッパという地域はどこにあるのか、ヨーロッパの中で、フランスはどこで、ドイツはどこか、などなど）の学習を徹底的に行う。</p> <p>左記、世界地図の読図、および地理的技能を身につけるための初歩として、白地図プリントと「色ペン塗り絵」の学習を繰り返す。すなわち、地中海を青く塗る。チベット高原を黄土色に塗る、等々。</p> <p>世界諸地域の生活・文化の多様性について理解させる初歩段階として、DVD 視聴覚教材（TV 海外取材番組の録画）を多用する。そして、この学習を異文化理解につなげる。</p> <p>これらの課題の考察についても、DVD 視聴覚教材（TV 海外取材番組の録画）を多用する。そして、この学習を地球的課題の理解につなげる。</p> <p>歴史的な背景については、2 学年にて同時に履修中の「世界史 A」の学習内容を参考にさせなければならないが、「地理 A」においても、随時補講する。</p>
<p>(2) 生活圏の諸課題の地理的</p>	<p>ア 日常生活と結び付いた地図 身の回りにある様々な地図の収集や地形図の読図、目的や用途に適した地図の作成などを通して、地理的技能を身に付けさせる。</p> <p>イ 自然環境と防災 我が国の自然環境の特色と自然災害とのかかわりについて理解させるとともに、国内にみられる自然災害の事例を取り上げ、地域性を踏まえた対応が</p>	<p>前述の「色ペン塗り絵」を、25000分の1地形図や東京都道路地図などの「塗り絵」などにも展開する。</p> <p>地震・火山関連の災害に関しては、日本列島が環太平洋造山帯上に位置することを踏まえ、プレートテ</p>

学習指導要領		都立蒲田高校 学カスタンダード
考 察	<p>大切であることなどについて考察させる。</p> <p>ウ 生活圏の地理的な諸課題と地域調査 生活圏の地理的な諸課題を地域調査やその結果の地図化などによってとらえ、その解決に向けた取組などについて探究する活動を通して、日常生活と結び付いた地理的技能及び地理的な見方や考え方を身に付けさせる。</p>	<p>クトニクスにも簡単に触れつつ、学習する。</p> <p>「色ペン塗り絵」学習は、東京都内道路地図、首都圏鐵道地図、東京メトロ路線図、大田区内地図、などに関しても行われる。</p>

学習指導要領		都立蒲田高校 学カスタンダード
<p>(1) 現代の政治</p> <p>現代の日本の政治及び国際政治の動向について関心を高め、基本的人権と議会制民主主義を尊重し擁護することの意義を理解させるとともに、民主政治の本質について把握させ、政治についての基本的な見方や考え方を身に付けさせる。</p> <p>ア 民主政治の基本原則と日本国憲法</p> <p>日本国憲法における基本的人権の尊重、国民主権、天皇の地位と役割、国会、内閣、裁判所などの政治機構を概観させるとともに、政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務の関係、議会制民主主義、地方自治などについて理解させ、民主政治の本質や現代政治の特質について把握させ、政党政治や選挙などに着目して、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について考察させる。</p> <p>イ 現代の国際政治</p> <p>国際社会の変遷、人権、国家主権、領土などに関する国際法の意義、国際連合をはじめとする国際機構の役割、我が国の安全保障と防衛及び国際貢献について理解させ、国際政治の特質や国際紛争の諸要因について把握させ、国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割について考察させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会契約説について、ホブズ、ロック、ルソーの特質をとらえ、自然権に基づく国家・政府の在り方は、現代の政治の基盤となっていることなどを理解する。 ・大日本帝国憲法との違いを明確にし、日本国憲法の三大原理を理解する。 ・我が国における三権分立の仕組みを国会、内閣、裁判所の各機関の働きと相互の関係を踏まえて理解する。 ・自由権と社会権の相違を踏まえながら、その成立の背景や具体的な権利の内容について理解する。 ・現代社会における相互の権利や利害対立を調整するための原理として、「公共の福祉」という考え方があることを、現代の社会での事例などを踏まえて理解する。 ・我が国の地方自治制度において、住民自治の実現を図るため、条例の制定・改廃、議会の解散、議員や首長の解職などについて、住民の直接請求権が認められていることを理解する。 ・国際社会について、環境、人権、貿易などの分野で、各国の対立が発生する一方、国際機関やNGOによる問題解決のための取組があることを把握する。 ・国際法上の人権に関する規定を理解するとともに、我が国固有の領土の経緯と我が国の正当な立場を理解する。 ・国際連合の機能とその役割について理解する。 ・我が国の国際貢献活動として、例えば、国際社会の平和と安全を維持するために自衛隊が果たしている役割などについて理解する。 ・冷戦後の国際政治の動向を踏まえて、人類の平和的共存を実現するには、民族対立や国際紛争の背景にある、文化や宗教の多様性について相互理解が不可欠なことを理解する。 ・国際平和の実現や、地球上の貧困や飢餓の撲滅に向けて、我が国をはじめとする先進国が果たすべき役割について確認する。 	

学習指導要領		都立蒲田高校 学カスタンダード
<p>(2) 現代の日本経済及び世界経済の動向について関心を高め、日本経済のグローバル化をはじめとする経済生活の変化、現代経済の仕組みや機能について理解させるとともに、その特質を把握させ、経済についての基本的な見方や考え方を身に付けさせる。</p> <p>ア 現代経済の仕組みと特質 経済活動の意義、国内経済における家計、企業、政府の役割、市場経済の機能と限界、物価の動き、経済成長と景気変動、財政の仕組みと働き及び租税の意義と役割、金融の仕組みと働きについて理解させ、現代経済の特質について把握させ、経済活動の在り方と福祉の向上との関連を考察させる。</p> <p>イ 国民経済と国際経済 貿易の意義、為替相場や国際収支の仕組み、国際協調の必要性や国際経済機関の役割について理解させ、グローバル化が進む国際経済の特質について把握させ、国際経済における日本の役割について考察させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・財やサービスを効率的に分配するための仕組みとして、現代における市場経済の存在を理解する。 ・家計、企業、政府の経済的な相互関係が一国の国民経済を構成していることを理解する。 ・貿易や為替など国際経済の動向が国民経済にも影響を与えることを理解する。 ・物価変動によるインフレーションやデフレーションの発生が国民生活に与える影響について、インフレーションは景気の過熱や投資の拡大と結び付き、デフレーションは景気後退や不況と結び付いていることを分析する。 ・財政による景気調整の機能として、増減税、伸縮的な財政政策及び自動安定化装置について理解する。 ・他国や地域によって独自の歴史や文化的背景をもち、それぞれ特徴を有していることについて、我が国と欧米諸国などとの比較を通じて理解する。 ・経済活動と国民福祉との関連について、環境保全よりも経済成長を重視することで、公害が発生し、国民福祉が阻害される場合があることを事例とともに理解する。 ・貿易について、リカードの比較優位説を踏まえて国際分業の利点を理解する。 ・国際収支の内訳や変動相場制の仕組み等について理解する。 ・変動相場制へ移行した国際通貨制度の仕組みについて理解する。 ・地域経済統合について、EUのように政治統合まで志向する地域や、ASEANのように経済統合を目指す地域など、様々な形態があることを考察する。 ・南北問題の原因とその解決策及び南南問題と呼ばれる新たな経済的格差問題について理解する。 ・新興国の発展とその課題について、資源ナショナリズムや国際通貨危機などに関連させて理解する。 	

学習指導要領		都立蒲田高校 学カスタンダード
<p>(3) 現代社会の諸課題</p> <p>ア 現代日本の政治や経済の諸課題</p> <p>イ 国際社会の政治や経済の諸課題</p>	<p>政治や経済などに関する基本的な理解を踏まえ、持続可能な社会の形成が求められる現代社会の諸課題を探究する活動を通して、望ましい解決の在り方について考察を深めさせる。</p> <p>ア 現代日本の政治や経済の諸課題 少子高齢社会と社会保障，地域社会の変貌と住民生活，雇用と労働を巡る問題，産業構造の変化と中小企業，農業と食料問題などについて，政治と経済とを関連させて探究させる。</p> <p>イ 国際社会の政治や経済の諸課題 地球環境と資源・エネルギー問題，国際経済格差の是正と国際協力，人種・民族問題と地域紛争，国際社会における日本の立場と役割などについて，政治と経済とを関連させて探究させる。</p>	<p>・少子高齢社会における社会保障の在り方について，政府による福祉政策を重視する考え方と，国民の自助努力を重視した福祉の考え方とがあり，具体的な事例を通じて，二つの考え方を考察する。</p> <p>・地域社会の特色ある発展を促すには，地方分権を推進するための政策や制度が必要であることを理解する。</p> <p>・雇用と労働問題については，終身雇用制や年功序列型賃金体系などにより雇用の安定を重視する考え方と，規制緩和により労働力を効率的に活用するという考え方があることを最近の労働問題もふまえながら考察する。</p> <p>・産業構造の変化と中小企業については，経済のグローバル化や国際競争の激化，規制緩和の進展などの状況が見られることを考察する。</p> <p>・日本の農業と食料の問題については，農業における生産，流通，貿易を自由化する考え方と，国内農業を保護するための政策を推進する考え方があることを理解する。TPPなども取り上げて考察する。</p> <p>・地球環境と資源・エネルギー問題については，地球環境の保全を優先する考え方，生活水準の向上を目指す経済発展（開発）を優先する考え方とがあることを学習する。</p> <p>・国際経済格差の是正については，先進国や国際機関による経済援助を中心とする考え方と，その反面，発展途上国の自助努力を中心とする考え方があることを理解し，発展途上国の経済的自立と地球の持続可能な発展が重要な課題であることを考察する。</p> <p>・人種・民族問題や地域紛争については，少数民族の分離・独立という考え方と多数民族との共生という主張とがあり，その二つの考え方を吟味しながら，現実の地域紛争等の問題を理解する。</p> <p>・我が国の国際貢献が，従来は資金面での援助や協力が中心であったことを踏まえ，今後は人的貢献にも力を入れる必要があることを理解する。</p>

